

◎ 総合議論

- NAOJ 案では OAO 閉鎖の議論に入るとの事だが、どういう timescale ?
- 専門委員会と運営会議を通して決まる話。これらの場所にコミュニティの意見を持っていく必要がある。9月か10月にだいたいの方針が決まるのでは。
- 例えば 5 年後に閉めるなら、地元への説明などいろいろあるので、来年には動き出さないと間に合わない。
- OAO, Subaru, TMT などを含めた総合的なグランドデザインを NAOJ は持っているのか？
- ない。それが一番問題。発表されていないグランドデザインというものはあるかもしれないが、それは財政などの **political** な話。コミュニティとしてのデザインを考えないといけない。
- 大学間連携や中小望遠鏡についてだけ議論しても駄目。TMT と Subaru だけの議論も駄目。コミュニティとして、中小望遠鏡から最先端、大学教育も含めてどうしたいのかグランドデザインが必要。個々の意見を出しても駄目で、コヒーレントな議論が必要。
- 一方、夏休み明けに方針が決まるという話だが、時期尚早では。グランドデザインができてから決めないと。
- 予算との関係もあるので、ゆっくり議論していても難しい。
- 昔は光赤外の将来計画はコミュニティで議論していたし、研連も議論を待ってくれた。しかし天文台がプロジェクト制になり、コミュニティをまとめられなくなった。この状況を天文台執行部が見て、執行部で方針を決めないと仕方ないと思ったのだろう。しかしこれでは判断の過程が見えない。これは危険で、危惧している。Subaru を維持しながら TMT と ALMA を進めるために何を削るのか、ということも考えているのだろうが、そういう議論はどこかの場面できちんとあったのか？ 議論のないまま不可解な結論に従うというのはいかがなものか。説明責任というものもある。

- NAOJ 案の背景だが、大型将来計画との関係というよりは、古くなってきた観測所をどうしていくかという観点。サッカーに例えると、ワールドカップを目指すチームを育成するという話と路地裏でサッカーを楽しむようにという 2 つがあったときに NAOJ はワールドカップを目指す場所、最先端を目指す場所。もう一方のところまで NAOJ がやるのか、ということになる。
- OAO をどうするかという話と 74 をどうするかという話は別問題。74 は閉めるとしても OAO の場はちゃんと残す役割を NAOJ は担うべきでは。大学での天文学を育てていくという使命も NAOJ にはあるはず。グランドデザインという話が出ているが、OAO をどうするという事でなく、むしろグランドデザインを考えるなら大学プロジェクト

をどう育てていくかという観点が大事だろう。

- 他分野から光赤外分野に参入できたり東工大で望遠鏡を作ったりできたのは、OAO という場とサポートがあったからこそ。これがなくなるのは非常に残念である。
 - 望遠鏡を持つ大学にとっての置き場としての OAO、というよりは、共同利用をより広げていくためにという観点も重要なのでは。そのために NAOJ が何かを持っておくのは大事。
 - どっちが大事というよりも、基盤をどう支えていくかという話。何かを閉めるのは簡単だが、一度失ったものは二度と立ち上がらない。その重みをどう考えるのか。NAOJ が大学を支えていくという大きな役割がある中で OAO をやめるなら、ではどうするのか。観測所から支える人がいなくなったら、OAO という場だけあってもすぐに decay するだろう。OAO を閉めるなら、これまで OAO が担ってきた役割をどうやって NAOJ が継続していくのかの vision が必要。現状では、NAOJ の代わりに大学でやっていくという力は大学にはない。例の 10% 予算削減が進めばひとたまりもない。
 - これまで京大は飛騨を持ち、東大は TAO を進めている。大学に実力が無いとは思えない。NAOJ が OAO を持っていた方が total に考えると得だ、という議論があれば台長も考え直すかも。
-
- OAO 閉鎖は経費削減が目的なのか？
 - 経費というより、むしろ人員や組織の問題。お金はどのみち出すことになるわけだし。
 - お金の問題ではない。スクラップするということが自身が重要。それは次の予算を取ることにつながる。
-
- 今日話を聞いていると、NAOJ が OAO を閉じるけれど京大望遠鏡運用の半分を出すという枠組で、うまくやれば現状の機能を維持していけるのでは、という考え方があるという話になっている。しかし、放っておいてもそうはならないので、NAOJ はお金を出すだけでなくコミュニティの研究活動が継続していけるようにしていく必要がある。これができれば OK、ということではないのか？それでもさらにやはり OAO が必要なのか？
 - 条件闘争的な議論には反対。今回の決断は時期尚早。京大望遠鏡はチャレンジングなものであり、共同利用の見通しもたっていない。今の 74 でやれていることを京大望遠鏡でやれるかといえば NO である（特に惑星探査については）。なので個人的には賛成できない。
 - 京大望遠鏡が安定して共同利用できるようになるまでは NAOJ が OAO を継続する、という考え方もある。2016 年という limit をやめてもらう、という案。
 - 3.8m 望遠鏡で共同利用をやるには、共同利用装置が必要。3.8m に移っていくために、今から NAOJ の協力ももらいつつ共同利用装置について考えていかないとイケない。

コミュニティの意見がもっと出る必要があるのでは。

- 今のままだと環境ががらっと変わってしまう訳なので、現ユーザーの意見が欲しいところだ。
- 74をやめないと言ったところで、この先10年も20年もやれる訳ではない。少なくとも3.8mが安定して観測時間の半分を共同利用で使える見込みができるまでは74を続けてもらいたい。3.8mの装置として74の既存装置は使えないという話があったが、本当に無理なのかなど検討を継続していただき、3.8mに持っていく可能性を考えてみていただきたい。
- HIDESはニーズがあるという話だったが、HIDESユーザーの意見は？
- 韓国と日本で高分散分光の観測時間をもらっているが、韓国のデータはやや劣る。74のHIDESが重要。これからターゲットを増やしていこうというときに、今の装置のクオリティをぜひ保ってもらい、共同利用を継続してほしい。
- 今の安定した装置を保つ、という意見は分かるが、せつかく口径の大きな京大望遠鏡が国内にできる中で、どうそちらに移っていくかという議論もあつてしかるべきなのでは。
- HIDESを使い続けたいという話が出ているが、3.8mに新しい高分散装置をという議論ももちろんあつてしかるべきだ。国内4m級望遠鏡に高分散装置を設置する価値があるかどうかという点も含め、いろんな考え方があると思う。
- どんな装置が揃うか分からない中で京大望遠鏡で50%の時間を共同利用に、と言われても難しい。京大プロジェクト用の装置があつて、それを使いたいならどうぞ、という考え方なのか、汎用共同利用装置を京大で用意していただけるのか、またそれをNAOJがどうバックアップするのか、などが分からないとなんとも言えない。それから外部からの持ち込み装置に対する考え方はどうなのか？74がなくなりUH88をやめる中、広大望遠鏡だけで持込装置に対応するのだろうか？
- 古くなってきたOAOをどうするのか、コストパフォーマンスも含めて考えていく必要がある。74で共同利用はやめて、専用望遠鏡にするという考え方だつて有り得る。全ての望遠鏡で共同利用をしなければいけない訳でもない。
- 京大3.8mのめどが立ってからOAOのことを考えたいという意見は分かるが、マスタープラン作りは重要なので、今回の件はそうした意味でのプレッシャーという意味もあるだろう。今回の光赤天連の企画には不満で、今のこの議論にもっとfocusしてほしかった。NAOJはこれまで地上天文学の窓口だったが、今後はSPICAやWISHなどもあり、大学共同利用研としてどういう役割を担うつもりかを考えていく必要がある。大学の研究者が集まって共同利用をどう考えるかを議論することが光赤天連でやるべきことなのでは。

- 大学間連携の件は、もともとは運営費をどう捻出するかという話だが中小口径望遠鏡共同利用とも関係するので、このあたりへのコメントがあればぜひ。
- 光赤外の今後の発展を考えると、もっと望遠鏡を持つ大学が増えるようにということも大学連携で考えていけるといいのでは。
- 文科省は研究より教育を重視しているようだ。大学間連携も、そうした視点が重要。それから、装置が「あるものを使う」という時代はもう終わっていて、やりたいサイエンスに基づいて必要な装置を考え、なければ自分たちで作るという発想が必要。作って 3.8m 望遠鏡につけてもらえばよい。
- 大学でも教育の weight が高まっている。研究は大学で、というのなかなか難しい。すばらの倍率が高く、UH88/UKIRT もなくなって、となってくると本当に大変。大学連携の話との関係では、大学望遠鏡を全国の研究者に使ってもらうという話は議論されている。
- 装置の作成や観測などには、長い経験の積み重ねが必要。これまで様々な経験を重ねてここまで来たという経緯がある。大学レベルでいろいろな経験ができるということが重要。最先端のためという観点だけではよくない。
- 74 も古くなってきている中で、3.8m 望遠鏡用装置を NAOJ の支援も含めコミュニティ全体で考えていくべきでは。9月に結論を出すのはあまりにも早すぎる気はする。
- 明後日に専門委員会がある。コミュニティからの意見としては、猶予が欲しいということか？ 半年待ってもらうとか？
- その場合は、光赤天連での議論の場をまた持つということか？
- もう半年待つてほしいと言って、認められた場合には、相当集中的な議論を絶対にしなければいけない。しかしそうでない場合だっていずれにせよこの議論はしなくてはならない。
- 今回の件は台長からの案を受けて出てきた話で、急だった訳だが、そもそも OAO の将来をどうするかという話はここ 15 年くらいやってきている話でもある。その一つの節目として、いまコミュニティで議論すべきだということであれば、光赤天連としても当然その方向で考える。直近では秋の学会の総会もある。